

あらと信する。

労働者診療所が大正二年震災直後、賀川豊彦、岡島仙博士の両氏によつて創設されたが、昭和五年間、多くの艱難を突破して、今や稍々その基礎を確立し、更に労働者診療所として発展せんといつてゐる。

我が関東合同は、比較的傷害事件の多い、雑種化学工業労働者と抱擁する関係上、従来より同診療所の援助を受け来つたのである。

以上の理由に基き本組合は今後同診療所を積極的に支持すべき義務を有つたのである。

実行方法

- (一) 先づ本大会の旨に於いて、労働者診療所支持の挨拶文を送ること。
- (二) 労働者診療所の事業並に発展に対しては、経済的及びその他の方法をもつて後援すること。

日本労界新聞

労働者に関する決議案

本所ニ夫新提出

説明者 川崎 誠

日本の資本主義は歐洲大戰以來急速に發達して資本主義的文化同體然りと發達してゐるが労働階級に向つては何等の利益も罰もなかつた反對に社会的不安を加へ資本主義制度に本階級の苦痛を極度にして来た社会の矛盾は日に増入せりと雖も増々失業者は増加し八十万人を突破してゐる労働者は毎日々々街頭に散ばれ此れを救つて働いてゐるとも賃金の低下と生活の不安にかまへられて是れを救ふべきに反発して手あつたか一丸と分る時、強硬な大口を以て待つてゐる労働階級は遂に激おくれで敵此してゐる。ブルジョアは自己の失敗を労働階級に轉じて権限を懸望して来た。今こそ及期期に其れを救ふ今日一切を上げて團結し闘争へとそれを通じて来るべき正義の社会がある事知つた。これに向つて進まぬならばその怒に向つてブルジョアに科せられブルジョアに科せられ正義の社会の他を批判し放棄し眞実のプロレタリアに知識の向上が必である。この闘争に於て日本労働新聞は

一、全国に於ける同志の奮闘を一章でも報告せよ、そのうち全運動の発展を知る事か正しく知ることが出来ぬ。